

第65回 東北・北海道地区大学等 高等・共通教育研究会への参加報告

鈴木健史

札幌医科大学医療人育成センター 教養教育研究部門 生物学

8月27日から28日にかけて山形大学小白川キャンパスで開催された第65回 東北・北海道地区大学等 高等・共通教育研究会に参加した。今年度の研究会の全体テーマは、「魅力的な学士課程教育の構築に向けて」で、東北・北海道地区の大学および短期大学の教員142名が参加した。初日の午前中に全体会Ⅰとして基調講演があり、午後からは、「アクティブラーニングとFD」、「教育の質保証とIR」そして「高大連携・初年次教育・キャリア教育」の3つの分科会に分かれて討論を行った。また、夜は山形国際ホテルに場を移して立食パーティ形式の情報交換会があった。2日目は、全体会Ⅱとして事例報告と分科会報告があり、分科会報告の後に、今回の会の総まとめとして全体討論を行った。

1 全体会Ⅰ

全体会Ⅰでは、当番校である山形大学の教育開発連携支援センター教授 小田隆治先生の基調講演があった。「公開・共有・相互研鑽による大学教育改革 - 改革もローマも一日にしてならず -」というテーマで、1999年のFD開始以来16年間にわたる山形大学の教養教育および大学教育の改善・改革の取り組みについて、経緯説明と現状報告、問題点、今後の方向性などの発表があった。

この報告のなかで、教員向けに作製された「あっとおどろく大学授業NG集」というビデオが紹介され一部上映された¹⁾。これは、大学教員が行ってしまいがちな悪い授業の例を、ドラマ形式でおもしろく且つわかりやすく紹介したもので、教員が自ら「よい授業」とはどのような授業かを深く考えるきっかけを提供する目的で作られた、教員向けビデオ教材である。新任の大学教員など教育経験の浅い教員向けに作製したとのことであるが、ベテラン教員を含めすべての大学教員が見るべき内容であると思った。というのは、これを見ることで教員が自身の授業を反省するきっかけができ、授業改善に確実に効果があると思われたからである。また、授業改善に向けた他大学の取り組みとして、名古屋大学 高等教育研究センターのホームページ「名古屋大学版ティーチングティップス」のティップス先生の例を紹介していたが、帰札後にそのホームページを閲覧したところ、極めてよくできた大学教員向けの教育プログラムで大変勉強になった。授業の進め方などでいろいろ悩むことがあると思うが、そのような場合に使えるアイデアがたくさん紹介されている

ので、参考してみるとよいと思う²⁾。

全体会Ⅰではさらに、泊まり込みで行う「FD合宿セミナー」についての報告があった。これは、京都大学と北海道大学および山形大学のFD担当教員が行っていた「FD合宿セミナー」や「公開授業と検討会」をアレンジしたものである。このFD活動によって、教員各個人が独自に行っている授業の工夫点が教員組織全体に広く知らしめられ、授業改善に対しての教員全体の意識が変わってきたそうである。

以上のように、授業改善に向けてのさまざまな取り組みを、山形大学をはじめいろいろな大学が行っていることを知ることができ、大変有意義であった。その一方で、FDは、しっかりした理念と熱意を持つ担当教員がリーダーシップを発揮して取り組まなければ、小手先だけのアリバイ作りに堕してしまうとのことで、そうなるとうとうFDとしての効果がないだけでなく、授業改善に向けて教員の協力もより得がなくなってしまうとのことであった。またこれには、教員以外の大学職員の協力も重要であるとのことで、SD研修会の重要性についても論考していた。

2 分科会

「アクティブラーニングとFD」、「教育の質保証とIR」そして「高大連携・初年次教育・キャリア教育」の3つの分科会があり、表1に示す話題が提供され、それぞれの話題ごとに討論した。分科会は3つの会場で別々に開催され、私は初年次教育に興味があったので第3分科会に参加した。この分科会は話題が多かったため、そのうち3つ(8~10)が第2分科会の会場で提供されることになり、これらは聞くことができない

かった。

私が参加した第3分科会で特に印象に残ったのは、大学の初年次教育の重要性についての分析結果を示した最初の話題である。話題提供者は、所属大学における卒業生に対して行ったアンケート結果をもとに、大学教育に対する満足度が初年次教育に対する満足度に強く相関していることを示し、初年次教育を充実させることの重要性について論考していた。本話題は総合大学における結果をもとにした論考だったが、医学教育の場合どうなるか考えさせられた。

次に印象深かったのは、インターネットを活用した授業展開に関する話題(表1。第3分科会 話題3)で、ウェブ問題集を簡単に作製するための自動化ソフトについて紹介していた。私も習熟度を自己確認させるための問題集をホームページ上にアップしており、本話題は参考になった。大学の授業では教科書や参考書はかろうじてあっても、習熟度を自己確認したりスキルを定着させるための練習問題集が用意されていないことが多い。このような、問題集がまったく存在しななかで効率よく自己学習しなければならない状況は、高校教育までの教育経験ではほとんどないため、勉強の仕方がわからず大学の授業について行けなくなる原

因のひとつになっている。講義担当者が練習問題集などを準備するだけで、大学初年次におけるつまづきを効果的に防止できるということで、ウェブの活用を推奨していた。また、このためには大学の情報管理担当者の協力が不可欠であるとのことであった。実際、私が運営している生物学のホームページにも習熟度を自己確認できる練習問題ページを設けているが、勉強する材料を準備してくれていると学生には好評である。本発表では、ホームページ上のミニテストに、個々の学生の実施状況や成績を自動集計する機能も装備されており、このような工夫も重要であると思われた。

3 情報交換会

情報交換会は、山形国際ホテルに場を移して立食パーティ形式で行った。さまざまな大学の先生方と最近の学生の状況について話し合った。大学ごとにそれぞれ特有の問題を抱えていることが理解できた。多くの大学で、学生に如何に勉強に取り組んでもらうとか、学問に興味を持ってもらうためにはどうすべきか、などが深刻な問題としてあるようであった。本学医学部にも勉強に熱心でない学生がいるが、問題の程度が違うように感じた。また、学外で学生が引き起こす問

表1 分科会のテーマと話題

第1分科会	分科会テーマ：アクティブラーニングとFD
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日英二重言語によるオンライン語学学習交流と英語のみのオンライン語学学習 2. レディネス多様性に対応するアクティブ・ラーニングによる受講者の変容と指導者の課題 3. 共同学習を取り入れた教養化学の授業展開 4. 理系科目におけるアクティブ・ラーニング -実践例と意識調査- 5. アクティブラーニング的要素を取り入れた導入教育「スタートアップセミナー」 6. 学生主体型授業における共通教育と専門教育の系統性を考える 7. 東北大学における学生ボランティア支援と社会貢献型の体験学習プログラム実施の現状と課題
第2分科会	分科会テーマ：教育の質保証とIR
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教学IRを視野に入れた「学位授与の方針」の達成度調査の取り組み 2. 教学評価体制の構築に向けての現状と課題 3. 持続的質保証を目指す山形大学型EMIR 4. 参照基準策定の現状と課題 -物理分野を例に-
第3分科会	分科会テーマ：高大連携・初年次教育・キャリア教育
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2014年度卒業時調査よりみた大学教育の現状と課題 -初年次教育の重要性- 2. 初年次教育におけるデートDV予防教育の提案 3. 学士課程教育における授業支援ツールの開発と活用 4. 学部横断型クラス編成地域学ゼミナールの導入について 5. 医科大学における初年次教育としての「医学セミナー」 6. 大学教育とNIR 7. もちアッププログラム 8. 今の自分たちに何ができるか -大学生の今と昔- 9. 付属高校内に設置された「獣医進学コース」での野生動物医学の初歩に関する授業例 10. 「就業力養成科目」への取り組み

第65回 東北・北海道地区大学等 高等・共通教育研究会への参加報告

題に悩んでいる教員も多かった。本学でも、アルバイトでのトラブルや交通事故など学外でのトラブルがあるので、そういった事例にどう対応するべきかについて大いに参考になった。

また、インターネットの授業への活用についての情報交換も行った。特に、しっかりした学習支援システムを構築している先生（上記第3分科会話題3の提供者）との情報交換は大変参考になった。しかし、しっかりしたシステムを構築するためには、大学の情報管理部門の協力が不可欠ということで、多くの教員がやりたくてもなかなか実現できないと言っていた。インターネットをうまく活用し、予習・復習など学生の自己学習を効果的に支援する環境を準備できれば、授業の学習効果を著しく高めることが可能になる。このためにも、大学の情報管理部門との連携が、今後一層重要になると感じた。

4 全体会Ⅱ

翌朝の全体会Ⅱでは、文部科学省大学改革推進室の専門官から「主体的な学びの確立と学士課程教育の質的転換」というテーマで発表があった。少子化に伴い大学教育に対する社会のニーズの変化に合わせて大学教育も変わっていかねばならないということで、実効性のある教育方法の確立を急ぐ必要があるとのことだった。その方策のひとつとして、大学教育の方法を今の講義形式からアクティブラーニング形式に質的に転換しなければならぬと主張していた。実効性という部分は、教育効果ピラミッド（Learning pyramid）を論拠にしつつ、事例を紹介しアクティブラーニングの良さを強調していた。

その後、前日の分科会報告をもとに全体を通しての総合討論を行い閉会した

5 感想

大学教育に関する研究会に初めて参加したが、大学ごとにさまざまな問題があり、それぞれいろいろなやり方で対応している様子があり有意義だった。

また、私は授業でホームページを活用しているが、教育効果の高いホームページをつくるための工夫やソフトウェアについて情報交換できる相手がおらず、ホームページの改善作業は行き詰まっていた。このため、インターネットの授業への活用について他大学の教員と情報交換でき大変有意義だった。

参考ホームページ

1. 山形大学教育開発連携支援センター
ホームページ「ビデオ版授業改善ティップス

あっとおどろく大学授業NG集」

<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/kyouiku/video.htm>

2. 名古屋大学高等教育研究センター
ホームページ「名古屋大学版ティーチングティップス」
<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tips/>

